

会 議 録

件 名	第2回宇治市特別職報酬等審議会
日 時	令和4年10月17日(月) 13:30~15:15
場 所	本庁舎 6階 602 会議室
出席者	各委員・事務局職員

【概要】

- 1 今後の審議予定について
- 2 審議等
 - (1) 資料説明等について
 - (2) 答申の方向性について
- 3 その他

【内容】

- 1 今後の審議予定について
審議予定について確認した。

2 審議等

以下について事務局より説明を行った。

- (1) 資料説明等について
 - ・他団体との比較状況について(減額前) 資料2-1
 - ・公共施設等の方向性について 資料2-2
 - ・お茶と宇治のまち歴史公園の利用状況について 資料2-3
- (2) 答申の方向性について

(委員) 資料2-3の中で歴史公園について令和3年度実績が49,648千円の赤字とあったが、構成企業がすべて負担するのか？

(事務局) 契約上はそうなっているが、新型コロナウイルス感染症等その他の要因もあるため、負担の内容については現在関係部署と企業の間で協議中である。

(委員) このような状況では企業は大変厳しいと思う。結局、宇治市が負担をすることになるのではないかと。このような赤字が続けば企業も逃げて行ってしまわないか。新型コロナウイルス感染症の影響が収まりつつある最近の利用状況はどうか。観光客の利用は増えているのか。

(事務局) 太閤堤に池があり、今年試しに放ち鵜飼いを実施し、一定できるという判断がなされた。そういったイベント等を実施することで集客を見込めるのではないかと思う。全国旅行支援が10/11より始まったが、まだ始まったばかりで影響はこれから出てくると思う。次回の審議会で10月の利用実績を報告したい。

(委員) 公共施設の将来像について資料の中で「地域の絆を取り戻し、市民協働で地域の課題に対応することが重要」、「世代や目的に捉われない気軽に立ち寄れる開かれた場、立ち寄りたくなる場であって、自然と人が集い、交流が生まれるような施設になることで、地域の拠点づくりを目指します」とあるが、これは公共施設でなくても実現できるのではないかと。例えば、宇治橋通り商店街の大阪屋マーケットのように自然と立ち寄れる場所となっている事例もある。必ずしもこれまでのような公共施設に捉われなくても目標は達成できるのではないかと。行政は、地域団体等が主体となって行う活動を支援するような取り組みを推進していけばよいのではないかと。

(次頁に続く)

(事務局) これまでの公共施設は市側が全て運営し、イベントも市が主体となって考えていたが、今後は中宇治の件もそうだが、複数の地域団体が主体となる場合もあれば、市と協働で行う場合もあるようなこれまでの型に捉われないようなかたちで交流を図るのがまず大きな目標である。建物そのものにしても市民協働の運営を念頭に置き、様々な地域の声を聞き、どういうものを創っていくのかを一緒に考えたい。

(事務局) 宇治市では子育てにやさしいまちづくりにも注力し、宇治橋通り商店街の一角では子育て世帯が集まれるような取り組みを行っており、行政だけでなく地域の方と一体となって盛んに活動している。今後、そういった取り組み事例を中宇治だけでなく、ほかの地域にも展開していく仕組みが出来れば良いと思う。地域の方との繋がりや担い手等の課題もあるが、地域全体が活性化するような取り組みができないか検討を進めているところである。

(委員) 行政が中宇治に注力していることは承知しているが、菟道ふれあいセンターに限って言えば、子供の遊ぶ場所がないように思う。今建物の前に花が植えてある場所が、以前は子供が遊べるような場所だった。子供に対してふれあいの場をもう少し考えてほしい。千葉県の流山市は去年人口増加率が全国 1 位だったが、若者世代や子供に対して行政が注力しているようだ。

前回の審議会で要望していたクーラーの件だが、審議会後すぐに業者が来て調整をしてくれた。ただ、新しいものに替えるということにはなかった。

(事務局) 元々幼稚園であった場所をふれあいセンターにしたが、耐震に関して問題がある部分は取り壊し、現在の状態で利用してもらっている。今後については、中宇治の多機能型施設構想も踏まえ、検討をしているところ。また、宇治公民館跡地についても JR の複線化を終えると更地になる予定であり、それらも含めてどこにどういった施設をつくるかを検討段階である。今の施設は仮であるため設備についてなかなか抜本的な改修には至っていないが、今後方針が決まれば将来展望が見えてくると思う。

(委員) これから実施される事業については分かったが、必要な投資の全体量とそのなかで現時点ではどういう状況を知りたい。KPI などがあれば議論の材料として示してほしい。

例えば、水道では今後 10 年で 130 億円の建設投資を見込んでいるが、これにより設備の更新が完了するのか。それとも今後も引き続き投資が必要か。

(事務局) 水道は耐震性が課題であるため、今後 10 年間で耐震化等に約 130 億円の費用を見込んでいる。まず、浄水場と配水池および基幹管路の一部について今後 10 年間で耐震化を図り、次の 10 年で配水支管の耐震化を行う予定である。

(委員) 茶づなについては、大変厳しい利用状況であるという認識を持って抜本的な利用促進策を講じる必要がある。駐車料金が周辺相場より高いので、価格設定を見直して来館を促進するのも一つだと思う。例えば、レストラン利用者は無料で駐車できるようにしたり、駐車場込みの入館料にする、宇治市内に泊まった人は無料で駐車できるようにする等、運営の方針転換が必要ではないか。

(事務局) 料金設定を含め、構成企業が運営を行っている。

(委員) 現状、企業がやっている。当初は歴史まちづくり推進課が所管であったが、4 月以降は旅行者への PR 等も含めて観光振興課と一緒に施策の検討を進めているとのことである。

(委員) 資料 2-3 の管理経費収支状況報告について、どの項目も実績が予定金額と比べて小さくなっているが、委託費だけは実績が予定金額より大きいのは何故か。

(事務局) 担当に確認の上、次回の審議会で回答したい。

(委員) 管理職も給料減額しているのか。財政状況が改善している状況で、減額措置をいつまで行うのか。一度下げるとなかなか戻すのが難しいという問題がある。いずれ本審議会で戻すタイミングについて提言をする必要もあるのではないかと思う。

(事務局) 管理職も減額を行っている。単年度で見れば黒字が続いているが、財政上の問題だけではなく、宇治市はラスパイレス指数の問題もある。数年前に全国 1 位になり、現在も全国的に高い水準であり、減額措置を戻すという判断にはなっていない。

(次頁に続く)

(委員) 自主的に減額すること自体は悪くないが、ラスパイレス指数が高いとしても物価高の影響もあり市職員の生活のことも考えると、今は減額を行うタイミングではないのではないかなと思う。減額措置を元に戻すという判断を政治的にいつ行うかは市に任せることであるが、「減額措置が恒常的にあることは問題である」くらいは提言してもよいのではないかな。

(委員) 民間企業から「宇治市は開発可能地域の開発許可に京都市の倍くらい時間がかかる」という話を聞いた。それが事実だとすれば、宇治市で投資しようとしている民間企業の大きな障壁になっているのではないかな。市の方針と、年間でどれくらいの投資の申出が出ているのか分かれば教えてほしい。

(事務局) 担当部署に確認して次回お示ししたい。

3 その他

人事院勧告準拠の改正影響額（試算）と各都道府県および政令市の勧告状況について説明。

(審議終了)